

インターバンクの声（2015年11月26日）

やはり米国のサンクスギビングデー（感謝祭）の前日とあって、欧州勢も早々とポジション調整を済ませて膠着相場入りかと思っていたら、ユーロは欧州市場の早朝高値から100ポイント以上も下落する展開となった。欧州中央銀行（ECB）が来週の理事会で複数の金融緩和の選択肢を検討しているとの金融情報サービス会社の報道があったためだ。市場が今回の理事会では見送ると考えていた資産買い入れ対象債券の制限緩和や2段階の中銀預金金利の設定などが含まれているとの事。ECBが実際に、こうした報道通りの緩和策を実施するとなれば、ややなり振り構わずの感は否めないが、それだけユーロ圏経済の厳しい現状の裏返しなのだろう。ただ、昨晚は1.06ドル台を割り込んでからは市場も慎重になったようで、ニューヨーク市場の中盤にはポジション調整によるユーロの買戻しが進んだ。真面目でいつも休日出勤同然のように祝日と週末の狭間の出勤となり割を食っていたニューヨークの友人（日本人）も、さすがに今回は26日から29日までの連休を主張して休みを貰えたようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。